

● 赤

第百六十一号

昭和十年十一月

で

し

(體育號)

● 赤



此第一人氣者



何々

學校日誌

十一月一日... 鎮守祭 午前八時半大神山神社参拜  
三日... 明治節 式後大神山神社参拜  
十三日... 運動會總練習  
十五日... 扇浦校運動會見學  
十七日... 本校大運動會

寄贈

保護者會基金へ... 五円他一月 父島分會

運動會用火竹

支广  
村瀬幸一

一ネンセイノ

ツヅリカタ

テラシテ 牛マシタ。トウダイ  
ハピカピカ ヒカツテ 牛マシ  
タ。

◎オマツリ ナカジマシタ

オマツリ デ オミコシ ヲカ

◎ウンドウクワイ ヨコヤマアキラ

ツギマシタ。五ネンセイハ

ウンドウクワイ ニ ハシゴクグ

ネンセイ ト ミコシ ヲカ

リ ヲシテ 三トウニナリ

キマシタ。セイネンダシハ

オマシタ。ソシテ ハウビ ヲ

ホキナ ミコシ ヲカ

モラフ トキ カウチヨウセンセ

フンシヨイ ワツシヨイ

イニ ホメラレマシタ。マタ

オホキイ コエ デ

イヒマオヒルカラ ウンドウクワイガ

シタ。アンドン ハ

アカルクアッタ。トキヤウツワ ヲシタ

トキ マタ ミトウニ ナリマ コハンヲ タベマシタ。ソレカ  
シタ。ソシテ マタ カウチヨウ  
ラ マタ ガツカウヘ キマシ  
モンセイニ ホメラレマシタ。

④ ウンドウクワイ ハマシヨウ  
ボクハ トギヤウソウノト  
キニトウヲ トリマシタ。  
ソノトキ ボクハ ウレシクテ  
タマリマセンデシタ。ソシテ  
ボクハ ムネガ スウスウ  
シテ タマリマセンデシタ。  
ソシテ ヲケヘ カヘツテ

⑤ ウンドウクワイ オクヤマトシコ  
ワタタシ ハアサ ハヤクオ  
キマシタ。ソシテ カホヲア  
ラツテ キモノヲ キカヘシテ  
ゴハンヲ タベテ タスキヲ  
モツテ デカケルト ガツカウ  
ノモンガ キレイニ ナツテ  
エウチエンノ コドモたちガ  
ヨロコビデ キマシタ。

うんどうくわい  
— 尋ニ —



④ マケコシキヤウサウ 沖山孝雄

出發線になりびきました。

と先生のこゑが聞えて「どん」とてつばうの  
音がしました。ぼくは聞くが早いかかけ出しま  
した。ぼくは一ばんでした。

わをくぐるまに卯之助君がぼくの前にぬい  
て出ました。ぼくはいそいで走りました。それ  
で追いつきさうになりました。ぼくは、すぐち  
くぼくにつかまつて上りました。てつぺんから  
とび下りようとしたけれどもどうせ二とうだか  
らとび下りなくても大がやうだからとび下  
りませんでした。ぼくは一生けんめいにか  
けました。それが二とうになりました。

④ くびひき 市木 晃

いよいよぼくらのくびひきになりました。  
せんたえうれんしふの時には、しやう平君と  
くびひきをやりましたが、今度は孝ちゃん  
とやることにきまりました。ぼくは、負け  
るかと思つてびく／＼しておました。並んで  
まん中の線にいきました。赤は左の方に  
なりびました。白は右の方に並びました。  
「ようい。」

と先生のこゑ「どん」とひすとの音が  
しました。ぼくはすぐひつぱりました。  
孝ちゃんは強いので、前のしやう平君の時  
よりは、すぐにはひつぱれませんでした。  
ぼくは、あるったけの力を出しました。  
それでもなかなかひつぱれませんでした。そ  
れでも少しづつひつぱつて行つてやつと、孝  
ちゃんをひつぱることが出来ました。だ  
が、ひつぱる時には首がいたくてなかく  
ひつぱれませんでした。あとで首をさわつ  
て見たらさわれないほどいたくなつておま  
した。つゞり方におみこしきやうさうのこと

を書かうとしたが首ひきが「ぼんおもしろいのか  
つたのでこのことを書いたのです。」

☐ ふうせんきやうさう 村松とし

うんどうくわいに、ふうせんきやうさうをし  
した。先生がびすとるを持って大きなこ  
で、「よいよい」といひました。みんな目を  
大きくして前を見てゐるうちに、先生が  
「どん」となりしました。みんなかけ出し  
ました。ぼうをひろつたと思ふとまたかけ  
出し、またまつちのぼうをひろひました。  
さうして、糸にぼうをまきつけました。

みんな、おうゑんの人は、むちゆうになつて  
「ぼうあ、負けるな。」

といひました。向ふにふうせんがあります。  
それをとつてふくらませるので、「ふうく〜」  
みんな一生けんめいです。あせをながし  
ながらふくらませました。

そのうちに、やうやく、ふくらんだのを持つ  
て立ちあがりました。私はかけ出しました。

元のあとにくみちゃんがかけて来ました。  
せんたくやのおぢさんが

「とし、しつかり。〜とうだぞ。」

あとから行くが。  
と大きなこゑで、いひました。私ははづか  
しくなりました。決勝線まで走つて、テ  
ープを切りました。

その時のうれしさは、どんなでせう。私  
はふうせんきやうさうのことはかりかんが  
へておます。

☐ 首ひき 石津 啓子

「どん」とびすとるの音。  
私はたまげて首にかけておたひもをひ  
きました。

「よんさ、よんさ。」

といくら力を出しても、おりゆうちゃん  
したので、かなひません。私はむちゆうにな  
つてひきました。もう、ぢきすじのそば  
になった時に、「どん」とまたびすとる

なつたのでしやがましました。  
先生が赤の方と白の方をかんじまうし  
ム、赤かち」といひました。赤のくみは  
みんな「ぼんざ〜い」といつたので、私は  
くやくしてたまりませんでした。

☐ かけつくり 菊池 三彦

あさおきました。けふはうんどうくわいで  
す。ぼんは、うんどうくわいだから、しつかり  
かけようと思ひました。〜(中略)〜

ながた先生が「三年生のときやうさう。」  
といひました。ぼんは、うれしくたまりませ  
んでした。それから、ときやうがはちまりま  
した。ぼんたちは、四ぼん目か五ぼん目でした  
。とうく、ぼんたちのかけつこになりました  
。ぼんは、むねがどきく〜しました。

すると先生が「よいよい」といつて、びすと  
るが「どん」となりました。聞いたと思つ  
たらすぐかけ出しました。負けるものかと  
思つて一生けんめいにかけますと、ぼんと〜

うたになりました。すきと、ともひるあそ  
ぶあそびが

「あびでもうあそび」

といひました。また、くんしやうをつけて  
もらひに行くと、ときやねえやが

「〜とうを二つもとつたものだから、

ものすきい。」

☐ せんしゅりれー 江口 秀子

みんないうが、がすんでからせんしゅり  
れーでした。私は、むねがどきく〜し  
て来ました。ぼん先に一年生が一まはり  
して私たちになりました。

私は、手をうしろにやつて、一年生がぼう  
をあだしてくれるのをまわつておました。

うしろであたしにくれました。私は、それを  
持つてむちゆうでかけ出しましたら、一年  
生の手がぶつつかつてこちびました。  
だから、私はぼんの人にわいわくをかけ

たと思つて多分いではねおきました。私はこ  
ちんだのでくやしうたまりませんでした。  
おうちへかへつて、おとうさんにもおかあさん  
にも、「こちんでおしかつたね」といはれま  
した。

■首ひき 田中 緋子

いよくニ多生の首ひきになりました。  
私は、うれしくて泣きました。さあ、うんどう  
ばに出来ました。負けないやうにとこゝろの  
中、思ひました。私はハマちゃんとしました  
。びすとなが「どん」となりました。私  
は一生けんめいでもやつたけれど、すこしひつばら  
れました。  
すこし行つて、をかしくなつて「へへ」と笑  
ひました。笑つたものだからこゝろがまじつた。  
「あ、しまった」と思ひました。すぐお  
き上りました。私が「あしひけばハマちゃん  
も「あしひきます。なかくしやうぶになり  
ません。びすとなが「どん」となつたか

らしやがみました。  
家へかへつてから、おかあさんが  
「首ひきはともおもしろい。また、らい年  
も、あんなおもしろいのをすればいいな」  
といつてお話ししてくれました。

◎しんだおとうと 山内 照二

うちの昭夫がしんだのはあさの三時でした。  
ぼくは、かなしくてたまりません。うちのかあ  
ちゃんも泣きました。ぼくも泣きました。  
やさばに行つた時は、かなしくてもたまりませ  
ん。また、うちの昭三がしんだので、ぼ  
くはかなしくてもたまりません。その時、か  
あちゃんも、昭三に「昭夫ちゃん」といふ  
にくらすのだよ」といつて泣きました。ぼく  
もはつえねえちゃんも泣きました。  
ぼくは、昭三のことも昭夫のことも、いつもか  
んがへます。ぼくは、かなしくてもたまりませ  
ん。ぼくは、そのことを忘れません。

尋三 つゞりかた。

あんどん 加賀谷 隆一  
ごはんをたべるとすぐ着物をきかへ  
てまつすぐ大神宮の方へ行つた小松  
の前で休んでなると、一番大きなみこ  
しが、ぼくの頭の所に来たので、僕はあ  
はて、頭を手でおさへた。みこしが  
向ふへ行くと僕たちは大神宮様へ行  
つた。面白いあんどんのかけてある  
ので、一つづつみながう山へ上つた。國  
さど忠次のもあつておもしろいのが  
多いのでお参りしたかへりにも見な  
からありてきた。

あんどんの火 菊池 吉彦  
僕はお祭の晩にあんどんの火をつけ

に行きました。すると僕のすぐそばに  
半分もへてゐるあんどんが、あり  
たおどろいて見ると、その中に長  
うそくに火がついておもしろい  
うしろからきて、「けしたはうが  
よ」といひました。僕はふつとけ  
てそのうそくを取つて家へかへ  
ておきました。

お祭りの晩 藤田 スミ子

一番おもしろかつたのはおどりで  
た私は夕ぼんをたべて家を出ながら  
邦子ちゃんのことを思ひ出して、ソ  
いで邦子ちゃんのとこへ行きま  
たが邦子ちゃんはまだ夕ぼんをた  
てておりました。おどりのだしのくさるの  
をまわりのまへておもしろいのが中々き  
せん。その中に「ワイ」

こへてきます。ぢやらん。さうさ  
もきこへてきました。おし、がきた  
といふ二息がしました。が私はへいさ  
なほほをしてぬました。すると、いきな  
りおし、がとびこんできたのでびつ  
くりして胸がどき／＼してきました。  
すると、おびりをしてぬると、だれか、  
いひましたのでゆふべとまつたとこ  
ろへ行きました。がとまりませんので  
ぞろ／＼とついていきました。

角力

淺沼正四

僕は角力をみたみてぬる中に角力が  
したくてたまりませんでしたので僕  
は、ただかになつてふんどしをしめて  
もうった。僕がとび出した。り幹哉がで  
ました。みきやに勝つて大りやうとか  
いてちろくぬぐかともうううううう

尋四綴方

運動會の當日

田崎文平

十七日はこちらの運動會でした。朝空を見  
ましたら少し西の方がくもつていました。の  
で私はこんなにくもつていては出来ないと  
思つて、かつかりしました。ごはんをた  
べて学校の庭に行つてみました。みんなが  
「出来る／＼」といつたので僕は急にうれ  
しくなつてうちにかへつた。しやつを着て  
学校にいきました。始まるるとすぐに君ヶ代  
の歌をうたひました。それと同時に國旗が  
上りました。それがすむとすぐに運動會  
のうたをうたひそれから体操をしてめいめ  
いじぶんのせきにつきました。

ねすみのギャンブ 中道秀男

先生が理科の時間に「さつまいもを水につけて

はじめて手ぬぐひをもちつたので  
れしくつてたまりませんでした。三  
抜のとき二人を抜いて、そのあと邦  
にぬかれてくやし／＼つてたまるない  
ので、おんどこを抜いてやらうと思つ  
たら「かうお前らにはとらせないとい  
ぬれました。

浅沼良吉

僕はお祭りにおみこしをかつぎに行  
きました。おみこしのおき場におみこ  
しが三つあつた子供の角力が終つて  
から、おみこしを「かついでい」といつ  
たので三四年のおみこしをかつぎま  
した。「ワシヨイ／＼」と一生けん命です  
足もふまれて「い」といつてゐる予  
もぬます。讀賣新聞社の前で休ん  
ど水のみました。それから支令部の

おけは芽がでるとおつしやつたから僕はかけで  
で家にかへつてびんの中に水を入れてさつま  
もをつけておきました。一週間位たつて見ると  
根が長くでて芽も出てゐました。僕はうれし  
てたまりません。あくる日学校からかへ  
つて見るとねすみにかじられてゐたから僕は  
やくにさわつた。かん／＼になつておこつた。  
ねすみは非常にわるい。

運動會の日

小林貞枝

朝起きて見るとまだはつきりしたお天気ではな  
つた。「お、このお天気ではするかな」と思  
つたら、おし、の気がした。でも又天気がかわつて  
日本晴になるかもしれないと思ふと、うれし  
ておどるくらひなのである。い／＼度も  
空を見たが、一／＼かうかわらない。  
しばらくして通りで生徒の聲がかや／＼とこ  
こえた。その中におし、れしさうな二息がまじつ  
てゐる。やつぱりするのかなと思つてゐた。  
私は安心して洋服を着かへた。

それからといふものは時々生徒のうれしさうなことをかした。お母さんが「運動会がある」と見へて生徒のよろこぶ聲がきこえるとおつしやつた。しばらくしてから学校へ行つた。学校へきても心がおどつてゐた。

夢

江平静男

僕が思つてゐる月の世界を見に行かうといつて友だちをさそひました。或日大砲があつたのでそれに行きました。月の世界についた時、お月さまのうさぎがむかへにきました。月の世界にのぼつておもしろいところをたべました。もう下では夜になつておもしろい。僕はかへりたくありません。これでお月様やうさぎにおれいを云つてかへりました。いよ／＼かへる時みんなでばんざいといつてかへりました。その時妹が僕を走こしました。あ、ゆめだつた。僕は笑つてかほを洗つた。

運動会の前日

諸田光子

土曜日に明日の運動会は出来るかと一日中心配だつた。妹をおぶつても運動会の事はかり思つてゐた。他の人も心配さうだ。夕方は雨が降り出したのでテル／＼ぼうずを作つたり色々ど雨がやむやうにしたがどうも雲が通らないので気がくしや／＼していつまでもしやくにさめつてゐた。夜おふろに入らうとするときその人が明日の運動会はこのもやうではとて来さうもないね。さうだせつかく子供だののしみにして居たのにとあきうめたやうに言つていた。運動会がちかよると勉強もろく／＼できなかつた。

二期を運動会の徒競走にたとへたならばもう三期を終へあと一周といふ所です。決勝点が向ふに見えて、王す、最後の瞬間す時はたゞす、自分もよく



運動會の朝

山下力太郎

僕等が待つて居た運動會が来ました。起きてすぐ空を見げるとくもつてゐたので今日は運動會は出来ないと思つた時僕の胸はどき／＼しました。しばらく立つと空がだん／＼と晴れて来ました。僕は大きく立つと家がだん／＼と着物をまきかへ飯をかきこんで学校に向つた。もう校庭では大ぜい集つて白赤の帽子取りをして居ました。その内いよく鐘がなつて始まりました。

徒競走

野母富雄

僕は徒競走をする前にむねがどきどきしました。なぜかと思つてのぶさんにきいたらお前は心づうが悪いなだといつたから僕はびくびくしなうがかけましたから、今年はずりになつたのです。その時僕ははづかしくてたまりませんでした。

洗濯競走

荒坂フジ子

いよく私たちの洗濯競走になつた。私はもう胸がどき／＼した。最初は登美ちゃん達だつた。二番目は村ちゃん達がかけた。三番目はちがスタートにならんだ時永田先生がポストルがなつたりかけ出すのだと云つた。今やおもしろいポストルの音を待つて居ると後で「ヨイ」と云つたと思ふとドンと鳴つた。私はかけて行つて地面にならんで居る前かけを取るとお父さんが傍から「ほらフジ子」と云つた。私はそれをさいてまつかになつた。それから洗濯物を取つて水につけ洗濯バサミを捨て居ると、もう早い子は決勝へついで居た。私ひとり後からかけて行くのがはづかしくてたまりなかつた。

綱引

奥山昌英

プログラムの最後に綱引と書いてある。僕等は綱引の位置についた。人数は白八十四赤は八十人であつた。去年は優勝旗を赤に取られた。今年是非でも優勝旗を白が取らねば存

これい事

興山スエノ

らぬのだ。永田先生が用意の合圖の笛をならした。白も赤もみくろな顔をしきしめてゐる。心の中では「或夜の事私は便所に行き度くなつたので雨戸をあけるとびかつと光つたものがあつた。いつと氣をしづめて見たがやつぱり光つて居る。私は急にこわくなつて、いそいで雨戸をしめて空のみすみにふるえて居るとお父さんが起きて私のやうすを見て、どうしたのよとさいたので私は今戸をあけると何か光つて居たよとのお父さんはそんなもの、何でもないよと、いふとお父さんはそんなもの、何でもないよといつておちついてしまつた。けれど、いくらへいきたと云はれても私はなかく、さつきの事が忘れられなかつた。忘れたらなかつた。その中にだん／＼夜があけて来たので外に行つて見ると、それは植木におぼれのかさがあつてそれが光つたのでした。私はその事を考へるとおくびやうなのに自分で自分を笑ひました。

「ヨウイシメ／＼／＼」と応援した。赤も一生懸命で応援して居る。僕等は満身の力をこめて引いた。応援の声は校庭一ぱいで耳がやぶけそうだった。「アア／＼」といふ声も大波のやうにうるさかつた。一進一退。満身の力を綱にそ、い、で一生懸命引つぱつた。じり／＼と綱がこつちの方へひつぱられてきた。その時前より大きなこゑで「オーエ」と力づけた。その時「ドン」とピストルの音。白が勝つた。僕等はありつたけの音が「萬ざい」と叫んだ。今度も負けるものかと引はつたが、だん／＼向ふへ引はられて遂にかちどきは赤に上つた。次は女生がした。カ一ぱい、おうえんした。二度とも白がまけた。表裏板を見上げると赤白同表であつた。今年も優勝旗は取れないかと思ふと、残念で涙が出さうになつた。

尋六  
綴方



石けり

笹口芳朗

二時間目の休時間の事である。私と憲一君とで石けりをしようと思つてすぢをひき始めた。そこへ昌明君が来て「僕も仲間に入れよ」と言つたのでジャンケンをした。私が一番先に始めた。然し四段目にだめになつたので、こんどは憲一君が始めた。やはりだめになつた。其の次に昌明君もだめになつた。私がもう一かくなると二段目に入れたら、かおが「やん／＼」なり出したので残念だつたけれど、やめて次の休時間を約束して教室へ入つた。次の休時間には私は二人、昌明君は一人と六段第一君は十一段だった。私達三人はまたお書からするので。

其の時には良い石を見つけて二人をうんと買かしてやらうと思ひます。一生けんめいやつてどうしても勝つてやらうと思ひます。

おなかの空いた時の氣持 西村静江

先生がたまつて綴方の紙を配り始めた。私は何だか嬉しかつた。うれしいなあと思ふとおなかの空いて来た。そして家へ早く歸りたいと思つた時、おひるのおかづが目に見えるやうだ。プーんとほふ白菜のおしづけ何んだかこゝまで、ほひが来るやうだ。おなかの空いた時の氣持は様々である。例をおけると早く家へ歸つて御飯を食べたい。何は、位食へられるだらう。おかづは何だらう。等である。だんだんおなかはすいて行く。時計を見ると十一時十分だ。十一時半までに早く綴方を書いて出さう。腹がへつてはいくさが出来ぬといふことわざがある。先生早く歸らせて下さいと心の中で言つても先生には私の心が通じないのか、いつと何か考へ込んでゐる。



虹 井上喜美

お風呂から出て海岸へ行つて見ると、海は静かでカヌーが二三隻浮いてゐた。魚を釣る船だらう。歌をうたつてゐると扇浦の方が殺々くもつて来た。又雨かと思つてゐると、とくくふつて来た。早速家へ歸つてせんたくものを取込んでたんでゐると、何時の間にか雨はかりりとやんで桐の葉がゆらゆらと風にゆらわつてゐた。庭へ出て空を眺めると、虹の橋がかつてゐた。七色の虹。私はお母さんに「お母さん来てごらんなさい。きれいな虹がかつてゐるわよ。」といふと、お母さんは「今忙しいからだめよ」と言つた。私はおんぐんぐんうすくなる虹を見ながら思つた。あの虹の橋を渡りたいなあといつて再び空を見たら、其の時は虹も消えてゐた。だんく暗くなつてしまつた。おいしい夕飯を食べる用をすまずと私は本を讀みながらゐた。



うせで何  
いさ下てけつびすむをんて

高一作文 鎮守祭

藤原芳子

今日は私等の鎮守の御祭だ。十一月一日は皆美しい晴着を着がつて嬉しそうに校庭に集つて来た。大神宮山に参拜すると、やかて私等の自由時間だ。そこへ小さな男の子供等があやうい足どりでも心から嬉しそうにマシヨイと神輿をかついで来た。それから美しいくら化粧をしたおちごさんも歩いて来た。私等秀子さんと和田さんの一同はもうあきたので防風杯の方へ行つた。今日は雨だといふ人は云つたが空は秋晴して天さへも今日の鎮守祭を祝つてゐるやうだつた。

運動會

水野朝子

十一月十七日は私達の待ちに待つた運動會だつた。曇りがちで心配だつた空もからりと晴れて今日の運動會を祝福するやうに日本晴の上天気。絶好の運動會日よりだ。門や音楽隊の場所などもきれいに飾られて、競技の始まるのを待つばかりである。どの人もどの人も愉快さうに嬉しさに、元氣一ぱいにとびはねてゐる。君が代やラナオ体操もすんで、愈々競技が始まつた。もろ来賓席も保護者席もいっぱいになり、合圖のヒストルが鳴つた。一せいに駆けつけた。カクケラムも終りになつて、マラソンになつた。合圖のヒストルが鳴つた。一せいに駆けつけた。した人々に向つて私達は、自分組の人か勝つてくれるやうに願つた。はやくはやくと一人づつ、順々に歸つて来た。第一着は六年生だつた。今までの得点では六年生の喜ぶ聲や他の組の残念がる聲がはつて、みだりにおちごの男生の時はお互に一獲つた。白の勝負はなした。次けて勝を赤にゆづりたくな。おちごの男生の時はお互に一獲つた。白の勝負はなした。次

は私達の番だ。一回目はとうとう負けた。今度こそ勝たなければと思つて場所をかへて位置に  
ついた。ストンとピストルの音と同時にいきはじめた。青年團などが一生懸命に旗を振つて応援  
してくれた。やがて次第々々にゴールが近づいて来た。手はいたくならし足はすれる。大分立  
かたは傾斜のピストルが鳴つた。苦戦と云ふ赤の叫びが聞こえて来た。併しうらみつこなしでい、だう、最後  
上つた。この為にとり、赤白同数の得点になつた。併しうらみつこなしでい、だう、最後  
に大村児童行進曲を樂隊に合せて歌つて今日の運動會を楽しく終へた。

### 鎮守祭

淺沼良次

去る十一月一日は大村の鎮守祭であつた。當日僕は朝早く起きて學校へ向つた。道の兩側の  
人家には軒に行燈が一つしてあつたのでそれを一つく見乍ら歩いてゐる中に學校の前まで來  
て仕舞つた。間もなく始まつたので皆ならんでお宮に参拜に行つた。午後角力があつたので僕  
も角力もどつた。これが終つてから御神輿をかついだりして村は一日中賑がであつた。

### 運動會

沖山慶文

十一日前は大村の運動會で、其前夜は寝ようとしても寝られなかつた。一番氣になつたのは變  
体々操だつた。僕等の徒競走には僕は二番になつた。八九番してゐるのにまだ扇浦の生徒は來  
なかつた。僕等のせんべい割の時にはやつと間に合つた。せんべい割には味方者に割れた。最  
其の時はしゃくにさへつた。運動會が終つた後では綱引をして赤が勝つて赤白同美だつた。最  
後に大村小學校の校歌を歌つてかいさんした。

拝啓運動會の模様を一筆申上げます。君も其後御元氣で勉強してあつて下さる。僕も元氣で  
勉強しておますから何卒御安心下さい。去る十一月十七日は天氣に恵まれて盛大な運動會が催  
されました。運動は順々にすすんで面白く愉快に全力を盡して紅白の兩軍はたがひました。  
兩軍とも同点で優勝旗は學校におあつかりになりました。そのほか例年とあまり変わったこと  
はありません。君のおた頃の運動會を思い出して想像して下さい。ではこれとつれい  
致す。御身大切に。草々々  
十一月二十八日  
菊池英七

神田 英雄 君

拝啓久しく御無沙汰に打過。誠に失礼仕り候。君も定めし御壯健にて御勉強のこと、存じ居り  
候。僕も相變らず大元氣にて勉強致し居り候間何卒御安心下さい。度候。  
さて當地の運動會の模様を大略御知らせ致さんとと思ひ筆をとりし次第上御座候。去る十一月十  
七日こそ當地の運動會にて晴天に恵まれ來客も吾先におおしかり候。萬國旗は朝風にひるがへ  
り誠に心地よく御座候。運動をやる者は總べて元氣に満ち、見る人も一生懸命に見物致居  
候。プログラムの番數も順次進むうち例年の通り扇浦校の児童見學に來校ありしたため一時中  
止。入場後本校との挨拶済み再び運動開始致候。運動はいろいろ面白く愉快に決行され  
最後の綱引と相成候。君も御承知の通り赤白の勝負となり、全競技の得点は同点にて  
これを以て本年の運動會も終り候。最後に大村の行進曲を行ひ、萬歳三唱を自取終として  
解散歸宅仕り候。先は大略之れにて失礼致度候。草々々  
十一月二十八日  
笹本文 謹啓

東京寒水君



十一月青年學校入學者姓名

小宮山公夫、玉城幸一、山本勝治、山下藤吉郎、

一家の隆否は其子弟の良否

一國の消長は其青年の素質良否に在り。

